



絹の道へ続く御殿峠（鎌倉古道）

杉山峠（御殿峠）

この峠道は、縄文、弥生、古墳時代から生活の道として利用されていた。特に古墳時代の八王子では、須恵器作りの窯が作られ、丈夫な壺などが日本海まで運ばれて行った。中世には、交通の発達で都市と農村との交流が盛んになり、峠を越えて馬借や車借で生活物資を運んでいた。近世には、江戸城築城に伴い、材木や石灰などが運ばれ、さらに横浜開

港後、幕末から明治にかけて生糸を運ぶ道路として利用された。しかし、長閑で平和なこの峠も戦の道として利用されることが少なくなかった。古代には日本武尊が東方征伐のため兵士を引き連れこの峠を越えたともいう。また、源平、南北朝動乱、そして戦国期には、武田と後北条、豊臣と後北条の戦もあった。明治に入り、自由民権運動や困民党事件では、指導者や農民らがこの峠に集結した。さらに日清戦争・日露戦争、太平洋戦争では、兵士を送り出す峠でもあった。そして米軍のB2爆撃機による八王子の空襲では、火の海になって燃え盛る八王子の町を大勢の人達が見守っていたのもこの峠であった。峠の地名は、杉山峠から御殿峠へ改称され、新しくなった国道十六号線（横浜街道）の新御殿峠は現在もつとも交通量の多い道路となっている。旧御殿峠は、今は山頂にわずかな痕跡を残しているのみである。

◇散歩のみどころ

JR横浜線相原駅から町田街道、鎌倉古道から御殿峠、東京工科大学までの凡そ四km強の行程である。相原駅東口から町田街道に出て、八王子バイパスを過ぎ清水寺へ。観音堂、鐘楼の彫刻が見事で、境内には、「青木得庵種痘普及為記念」の碑やジェンナー、近藤勇の祖父三助の碑などがある。バイパスに戻り、脇道を鎌倉古道へと歩く。途中、稲荷社に参拝し、子安地蔵のある瑞光山道林寺に着く。寺宝の千手観音が素晴らしい。寺の横を登って鎌倉古道（御殿峠古道）へと入る。むかし道を辿り、都立多摩丘陵自然公園の石碑と結婚式の日本閣へ。次に茶道研修所の「愛治庵」がある山野美容芸術短期大学を見て、コロボツクルの詩碑やコックス親子の記念碑がある多摩養育園へ。そしてキャンパスが見事な東京工科大学を見学し解散。

●相原の由来

その昔、この地一帯の原野には藍染の草が繁り、旅人達は「藍の原」と言い伝えたという。縄文晩期の頃から農耕文化が進み、藍草は刈り取られ、粟、麦、稲等の穀物が作られるようになった。

古くは粟飯原とも表記し、平安時代後期から鎌倉時代にかけて武蔵国多摩郡を拠点に割拠した武士団「横山党」のうち粟飯原氏の地とされる。この時代、氏の名が土地名として使われることが多いのである。その後、源氏が滅び、北条時代になった頃、相模の国の原であることから「相原」と改称されたものと思われる。

明治四年の廃藩置県により、相原は神奈川県に属したが、その後明治二十六年、三多摩郡は神奈川県から東京府管下になった。現在は町田市に属している。

①横浜線相原駅

横浜線は、横浜鉄道株式会社により建設され、明治四十一年（一九〇八）九月、東神奈川と八王子間四十二、六kmが開通した。その後、大正六年国有鉄道に買収され、現在のJR東日本会社に移った。通称「浜線」と呼ばれ、横浜鉄道の路線を受け継いでいる。

相原駅も人口増加と共に利用が増え、近代的な駅舎に変わっている。



JR 相模原駅

②瑞石山 清水寺 せいすいじ

町田市相原七〇一

臨済宗清水寺の創建は寛永元年（一六二四）であるらしいが、幕末に当時の名主であった青木易道を中心とした村民の手で整備された。

徳川十一代将軍家斉の頃、大奥の御中臈が宿下がりとなり、青木家に身を寄せていた。その後本堂を再建し、清水寺庵主として仏につかえ、徳川代々の霊の供養に精進した。

その関係なのか境内の建物には三つ葉葵の紋が配されている。



清水寺にある徳川紋



藍原氏館跡比定地

●観音堂

観音堂は寛永三年（一六二六）と嘉永三年（一八五〇）に再建された。

正面の向拝はみごとな龍が彫刻され、堂本体とのつながりも雲龍の丸彫になっている。堂の外廻りの龍や獺（ばく）の彫刻もみごとである。

この観音堂に安置されている観音像は相原観音または、旧地名が坂下であったことから坂下観音とも呼ばれている。町田市の有形文化財である。



観音堂



見事な彫刻

● 鐘楼

天保十三年（一八四二）の再建。
この鐘楼も木鼻を獅子鼻とし、琵琶板と支輪に朱雀、青龍、玄武の彫刻が施されておりみごとである。鐘は約七十二cm。町田市の有形文化財となっている。



鐘 楼

● 水屋

水鉢には「天保□酉」と刻まれていることから天保八年（一八三七）頃の作と思われる。

この水屋も、頭貫を虹梁形にして獅子鼻をだし、中備に松と人物、梁行に龍、妻飾に鳳凰、菊水などの彫刻がある。屋根は銅板葺であるが、もとは柿葺であったと伝えられている。こちらも町田市の有形文化財。



水 屋

● 善 寧 児 先生 の 碑

ジェンナー

イギリスの医学者、エドワード・ジェンナーのこと。エドワード・ジェンナーは種痘を考え出した人で、これによって天然痘の被害が劇的に減り、一九八〇年五月八日にWHO（世界保健機関）は天然痘の根絶宣言をしている。日本においても江戸時代、天然痘は最も恐ろしい伝染病の一つで、多くの人命が奪われた。

嘉永二年（一八四九）大阪では適々斎塾を開いていた緒方洪庵が、江戸では伊東玄朴が種痘の実験に成功した。玄朴は幕府の許可を得て神田お玉ヶ池に種痘所を開設した。後にここが幕府の西洋医学所となり、緒方洪庵が呼ばれて頭取となった。東大医学部の前身である。

青木得庵は漢方医太田覚庵に医学を学んだ後、牛痘接種による天然痘予防術を学び痘苗を持ち帰った。そして痘苗を末子桃吉に接種し実験した。人々の間では「疱瘡の牛の膿を

植えるのだ、牛になる」などと流言が飛び交いその苦心は一通りではなかった。

得庵は多摩、津久井、高座、愛甲郡などの農民に対し、天然痘の予防には種痘がどんなに必要かを、ねばり強く説いてまわり広めていった。

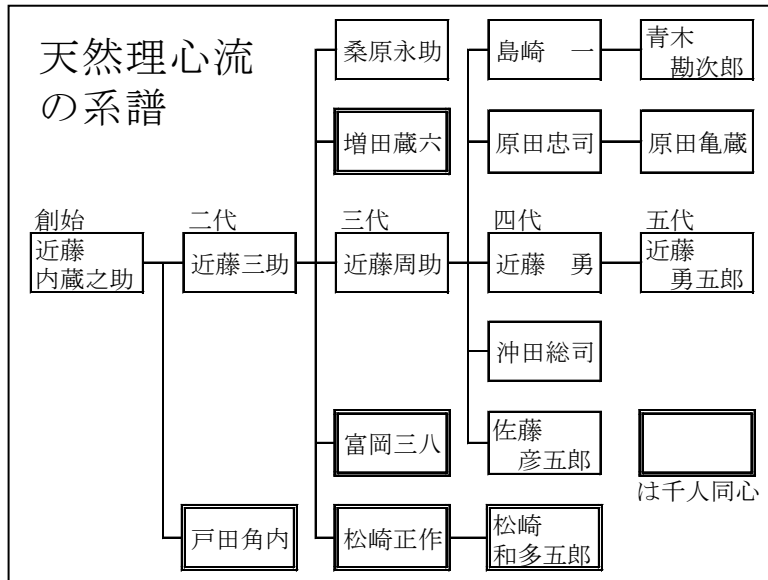
清水寺の境内、観音堂の隣にはイギリス人善寧児（ジェンナー）の功績を称え、また得庵の霊を慰めるため明治二十五年「善寧児先生碑」が得庵の妻喜代によって建立された。石碑の背面に「青木得庵種痘普及為記念」と刻まれている。



善寧児先生碑

● 近藤先生の碑

天然理心流の近藤三助の死後、七回忌の文政八年（一八二五）に世話になった門人達によって建てられた。境内には立派な宝篋印塔がある。



● 近藤三助 方昌

みちまさ

天然理心流の二代目を継いだ三助は、安永三年（一七七四）多摩郡戸吹村の名主坂本戸右衛門の長男として生まれた。

創始者近藤内蔵之助は、死に際に気合術の奥義を三助に授けたといわれている。剣、柔、棍、気の四つの法を継承した唯一の人であった。この気術は三助の急逝により、次代に受け継がれなかった。後に剣、柔、棍の三術は、三助の信頼も厚かった、増田（三沢）蔵六によって継承されている。三助は、戸吹の自宅に道場を構えながら、八王子を中心に多摩郡、相州津久井郡、高座郡、愛甲郡、甲州北都留郡にも稽古に出向いていたようだ。江戸にも道場を開き、無敵の剣豪といわれた。文政二年（一八一九）、相原村の指南中急病で亡くなった。四十六歳の若さであった。墓は、八王子市戸吹町の桂福寺にある。



宝篋印塔



近藤三助の碑



稲荷神社

③ 稲荷社

町田市相原五四九

祭神 宇迦之御魂命
 創立 天和年間（二六八一〜四）伝承
 昭和五十八年国道十六号バイパス
 工事のため現在地に移設新築された。
 俗称宇賀稲荷ともいう。
 横に石の祠が二つ鎮座している。
 明治四十五年と大正二年に建立した
 ものである。

④ 瑞光山道林寺

町田市相原五九七の七〇

宗派 臨済宗妙心寺派
 開山 秀外宗鼎和尚
 寺宝 千手観世音菩薩
 閻魔大王、達磨大師



稲荷神社の祠



宇迦之御魂命

元々は、赤坂一ツ木村において端龍山大休院と号し、明暦元年に現在の東京都新宿区市谷富久町にあった。天保四年に法号を道林寺とし、元禄十五年に瑞光山道林寺と改号した。昭和二十年の空襲により堂宇及び伽藍を消失し、昭和三十七年に現在の東京都町田市相原町に移転。現在の道林寺は、住宅街に溶け込む様な佇まい。以下、ご住職のお話し。

「茨城県浪方郡の長泉寺が、新宿区四谷の瑞光山道林寺に移った。そして、現在の地に移って来た。茨城の長泉寺の開基が藤原秀郷であったという事以外は、すべて不明である。」

寺宝の他に日光菩薩、月光菩薩、十二神将など安置されている。道林寺入口には子守地藏があり、左手に子供を抱いているのが珍しい。また、古い子安地藏の写真が堂内に飾られている。入口の子安地藏は近年のものである。



昔の子安地藏



瑞光山 道林寺全景



千手観世音菩薩拡大



道林寺内



閻魔大王



ダルマ大師



十二神将



集められた野仏



左 : 日光菩薩
中央 : 薬師如来
右 : 月光菩薩

⑤御殿峠古道

町田市相原

国道十六号線が相原町から八王子市を越える峠を御殿峠と呼び、かつては杉山峠と言われていた。

この峠付近の地図を見ると、町田市側の市境界が八王子市側の峠付近まで細長く食い込んでいて奇妙に感じられる。その細長く峠付近まで延びている市境界の中央に昔のままの古道が近年の開発を免れ、奇跡的に残されている。



絹の道へ続く御殿峠

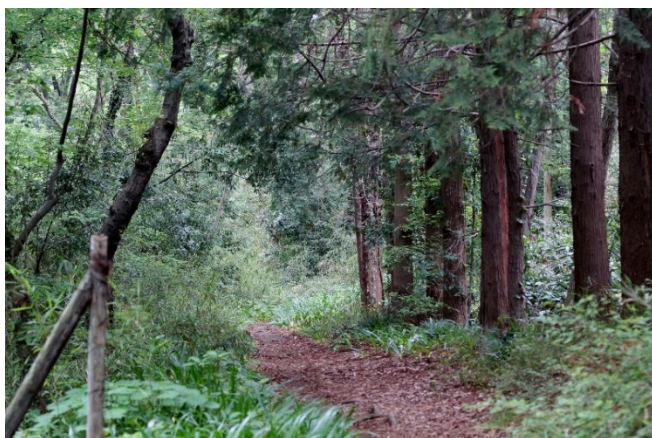
●戦国武将が駆け抜けた道

武田信玄が永禄十二年（一五六九）

に北条氏照の立て籠もる滝山城を攻めた後、氏照が小田原城を目指して越えて行った道であり、また豊臣秀吉の軍隊が八王子城を攻める時、越えて来た道でもあると伝えられている。

●堀割状遺構

鎌倉街道の跡として堀割状遺構が四百mほど良好な状態で残されている。この堀のような地形は、信長や秀吉の時代より古い道の跡である。峠道を切り通し状に掘り、まっすぐな道にしたものと思われる。しかし、道の底が雨水などで泥濘状態になり、歩きづらくなったので、一段高い道が出来たと考えられる。



堀割状遺構が残る鎌倉古道

●絹の道

この御殿峠古道は幕末の頃の絹の道でもあった。一般に多摩丘陵の絹の道は、ここより東にある鱧水峠道が有名であるが、共に二つの峠道は絹の道であり、鎌倉街道でもあった。

⑥ 都立多摩丘陵 自然公園の碑

八王子市南部から日野市・多摩市の各市にまたがる多摩川右岸のなだらかな丘陵地帯は、昭和二十五年十一月二十三日に自然公園に指定された。野猿峠・平山城址公園など、かつては手軽なハイキングコースだったが、今では宅地化が進み、尾根道が分断、旧御殿峠越えの道に、碑だけが当時の面影を今に伝えている。



都立多摩丘陵
自然公園の碑

● 旧御殿峠越えの道

日本閣の横から入る舗装道路は旧御殿峠越えの道である。国道十六号

線が出来る前の峠道であり、本来の古道が通っていた尾根を削り取り、切り通しに造った道である。



旧御殿峠の道

● 杉山峠と御殿峠

現在の峠道は、東京都八王子市片倉町と町田市相原町の境にある。海拔百九十m、西側の最高地点は二百十三・四m、国道十六号線をいう。旧道は、新編武蔵風土記稿、武蔵名勝図絵には「杉山峠」と記されて

いる。この峠道は、多摩丘陵越えの道として、縄文弥生時代から利用されており、鎌倉道としても使われていた。古くは片倉村車石から現在の国道十六号線を横切り、尾根筋を南に進み、境川畔を下っていた。また幕末の地形図には、「新横山村（子安村）より片倉村 杉山峠を経て厚木に至る厚木往還」とある。

杉山峠の由来は、武蔵名勝図絵に「相州小田原辺への街道にて（中略）往古は嶺上に杉の木立あるゆえその名あれどもいまは芝地 山はない」とある。また御殿峠の由来については、藍原孝遠（栗飯原氏とも）の館が殿丸と呼ばれる峠の高台にあったからとの説。明治天皇が兎狩りの折、野点所を設けたところからの説。

また、お浜御殿が橋本宿の上り口にあったことからなど等諸説伝えられているが、いずれも明確ではない。従って、杉山峠の呼び名の方が古くから使われていたのではないかと推察できる。

●御殿峠大結集

武蔵困民党結成へ

武相困民党は数か村の連帯で大衆動員を行い、運動は相州北部に波及した。明治十七年（一八八四）八月十日御殿峠で約五千名の大集会を開いた。これが困民党の御殿峠大結集である。二百人以上が八王子警察署に引致された。このとき自由党員が債権者と困民党との仲裁に入ったが、九月には負債農民が八王子署に乱入する事件も発生した。さらに十一月十九日、武蔵国南・西・北多摩三郡、都筑、橘樹五郡、相模国高座の愛甲二郡の計七郡三百余村が加盟して武相今明党が結成された。借金返済期間延長、利子減免等を目的として、明治十八年まで各地で騒動を繰り返した。やがて、神奈川県が解散命令を出し、八王子警察が出動して指導者を逮捕したため壊滅していった。

八王子地域の指導者としては、谷野村の須長漣造、内田太一、館村の奎代軍蔵らがいた。



御殿峠近くの谷戸道



御殿峠全景



御 殿 峠

●困民党発生背景

薩摩藩出身の松方正義が大蔵卿に就任し、デフレ政策を強行したことにより、全国農村漁民が生産する物価が下落し、収入は大きく減少した。実質上増税となり、生活は非常に苦しくなっていた。これに追い打ちをかけるように明治十六年（一八八三）の世界恐慌が始まり、日本の貿易も大きな打撃を受けた。生糸の輸出減少の影響で、養蚕農家を襲った貧困は、その一例であろう。

農民は、土地を手放したり、高利貸営業者から借金し、法外な利子率の引上げで身代限りとなる者も出た。松方財政のデフレ政策により全国農漁村に発生した負債農民集団は、困民党、借金党、貧窮党などと呼ばれた。やがて公官庁などを襲撃するという事件に発展していくのである。因みに、八王子周辺では、武相困民党、秩父困民党などがある。

●松方財政政策

明治十四年（一八八一）の政変で松方正義が大蔵卿に就任した。就任直前の日本経済は、西南戦争による通貨の増発（国家予算一年分相当）などによって貨幣価値が下落し物価は高騰していた。このようなインフレーションの脱却と国家財源の確保の為の政策を打ち出した。



松方正義大蔵卿政治家の頃

松方大蔵卿の財政

- ・紙幣整理事業
日本銀行の創設と兌換（だかん）銀行券の発行
- ・殖産興業政策の転換
政商への官業払下げと重点的保護政策
- ・緊縮財政と増税の断行
- ・軍備拡張政策

以上の政策により税收の増加と輸出の増大もあって銀の保有高が増えた。そこで政府は日本銀行を設立し、兌換紙幣を発行し、巷にある旧紙幣を回収していった。松方財政は外国からの借入金をせずに増税を強引に進め、紙幣の整理を行った。そして兌換制度を作り、紙幣の価値を安定させデフレ政策を強行した。

⑦八王子日本閣

町田市相原町一〇〇八

御殿山の峠のほど近くにある結婚式場。自然の景観をそのまま活かした庭園に面して、日本閣御殿山店が昭和五十一年（一九七六）年九月開業。



日本閣



教会

●バージンチャペル

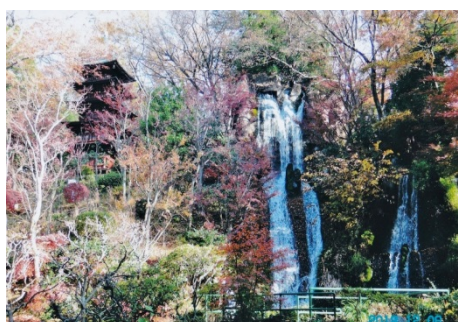
ベルサイユの庭をイメージした水景と華やかな植栽が迎えてくれる。結婚の場に相応しい静謐な空間と大切なゲストが集う誓いの場である。庭園を三百六十度見渡せるアクアソレイユは、都内でも希な全天候型ガーデンチャペルとなっている。



バージンチャペル

●上善の滝

御殿山の山頂から流れ落ちる滝。汲み上げ式ではあるが、雄滝が十五m、雌滝が十m。毎秒六トンの水流があり、圧巻である。



上善の滝と五重塔



上善の滝

●五重塔

滝を見下ろす場所に立つ五重塔は、諏訪の宮大工の矢崎今朝利氏の建造。曲尺一本で木を刻むところから五年の歳月を費やし、昭和四十九年に完成した。木立に囲まれた朱の堂棟は、古刹をも感じさせる佇まいである。また、神殿も矢崎氏の手によるもの。



神 殿



五 重 塔

●御大典記念林

御殿山山頂の三角点近くに御大典記念林の石碑が建っている。高さは1m程で

南多摩郡堺村

大正四年四月植

と刻まれている。大正天皇の植樹といわれている。



御大典記念林



御殿山峠の三角点

⑧学校法人山野学苑

山野美容芸術短期大学

八王子市鏈水五三〇

●初代学長山野愛子氏

明治四十二年（一九〇九）東京に生まれる。美容家の草分けとして永年に渡り、国内外の美容業界の発展向上と後進の育成に尽力。昭和五十五年（一九九〇）、女性初勲三等瑞宝章を受章。平成四年（一九九三）に、山野美容芸術短期大学を設立、初代学長に就任。生涯を山野グループ創始者として、日本美容界のパイオニアとして献身した。一九九五年逝去。



初代校長山野愛子

●山野学苑の歩み

- ・昭和九年（一五三四）
山野美容講習所開設
- ・昭和二十三年（一九四八）
国際山野高等美容学院開校
- ・昭和五十二年（一九七七）
専修学校認可に伴い、山野美容
専門学校に校名変更
- ・平成四年（一九九二）
山野美容芸術短期大学開学



山野美容芸術短期大学のシンボル

・平成十年（一九九八）

山野日本語学校開校

・平成十五年（二〇〇三）

山野医療専門学校開校

・平成二十三年（二〇一一）

従来の学科を改組・左記を開設

美容総合学科

美容デザイン専攻

総合エステティック専攻

国際美容コミュニケーション専攻



山野美容芸術短期大学校舎



ヘアーカット



愛治庵額



愛治庵

●愛治庵

庵の由来は、山野美容芸術短期大学の初代学長と山野治一総長の名から取ったもの。「愛をもって治める」ことから「愛治庵」と命名された。

庵の建物は昭和三十二年（一九五七）、今日庵東京研修道場として、裏千家第十四代淡々斎宗匠により建築されたもの。当初は、千代田区二番町にあったが、平成八年、山野学苑に寄贈された。平成十一年、現在の敷地内に移築再建されたもの。庵の内部は、第八代又玄斎宗匠ゆかりの「梅庵」など、数々の由緒ある茶室が配置され、建造物としても貴重。

⑨ 社会福祉法人多摩養育園

八王子市八木町八一十一 光明ビル

昭和二十年八月二日八王子市

空襲で、八木町にあった雲龍寺が焼失した。住職の足利正明氏は、同月復興した本堂を戦災孤児や子供達の無料託児所として解放したのが原点となり、昭和二十八年に社会福祉法人多摩養育園を設立。現在、保育所、高齢者施設、障害者施設、救護施設など、指定管理四施設を含む十八施設を運営している。

鑓水の養育園（八王子市鑓水四二八）は、救護施設「光華寮」として昭和三十五年（一九六〇）七月開設。平成二十五年二月に光華生活棟、同年六月にふれあい館が落成。改築を契機に施設名を改名。併せて同敷地内にある三施設を総称して「鑓水の里」と命名。敷地内には、神仏習合の正山寺金銀稲

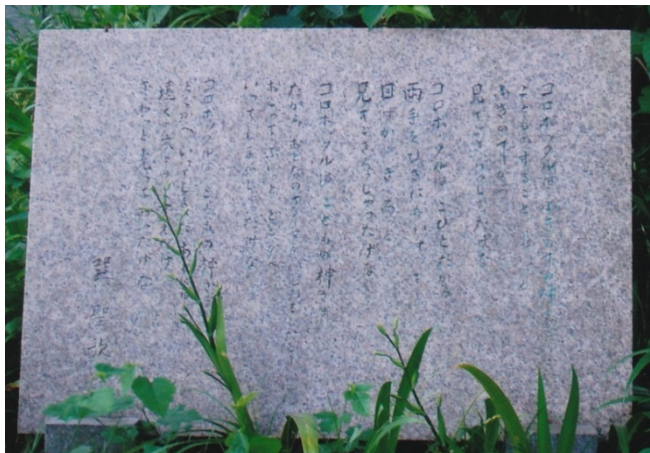
荷社や学生地藏尊、梵鐘、詩文の石碑、石仏などが配置されている。



正山寺金銀稲荷社



多摩養育園



コロボックの詩碑

● コロボックルの詩碑

異聖歌が作ったコロボックルの詩の石碑は昭和三十九年に多摩養育園の庭に建立された。

コロボツクルはふきの下の神さま
こどものすることじいつと
ふきの下から
見てござらっしゃったげな
コロボツクルはこびとだから
両手をひざにおいて
目ばかりぎよろつと
見てござらっしゃったげな
コロボツクルはこどもの神さま
だからおとなのアイヌがいじわる
したとき
おこつてぷいっとどこかへいつて
しまわつしやったげな
コロボツクルはこどもの神さま
どこかへいつてしまつたあとには
遠く木々のこずゑだけ
ざわつと光つておつたげな

巽 聖歌

石碑の背面に「北海道広尾町の高野万千子、多摩養育園の友人たちと老人の力をかりて、子供たちに平和と夢と憩いをあげようと、この丘にこの碑を建つ。」とある。

● 巽 聖歌

たつみせい か

本名野村七蔵。岩手県紫波郡日詰町（現在の紫波町）出身。童謡「たきび」の作詞者として知られる。童謡雑誌「赤い鳥十月号」に巽聖歌のペンネームで発表した詩（少年詩）「水口」が北原白秋に絶賛され、同誌の常連投稿者となる。童謡・少年詩・近代短歌の歴史の上に業績を残した。昭和十六年、第二回児童文化賞受賞。出身地である紫波町立日詰小学校の校歌をはじめ、八王子市立由木小学校の校歌など、全国的に多くの校歌の作詞をしている。



巽 聖歌

● やさしいコックス先生

イギリス人、ロンドンに生まれる。明治九年、明治政府のお雇い外国人として来日したウイリアム・ダグラス・コックスの長男ポール・コックスである。大正六年から南浅川の白山橋の近くに住んでいた。夕方に子犬を連れて高尾山の麓をよく散歩し「やさしいコックスさん」の愛称で町の人たちに愛されていた。

彼は明治、大正、昭和と親子三人で、わが国の大学、高校などで英文学や英語教育に貢献していた。東京商船学校や慶應義塾普通部などで英語を教え、高尾に住んでから府立第二商業学校の英語講師（嘱託）となる。昭和十九年の第二次世界大戦末期に強制退居を命じられ、翌年春横浜港から船で送還される途中、病死した。

昭和三十二年昭和女子大学近代文学研究生や三多摩の有志らで建てられ

た英人コックス親子の記念碑が多摩
養育園の庭に建てられた。

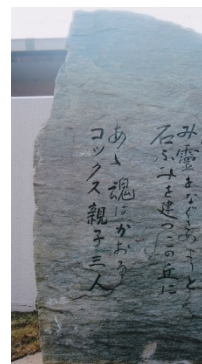


府立第二商業学校卒業記念帖より

ウィリアム・ダグラス・
コックス

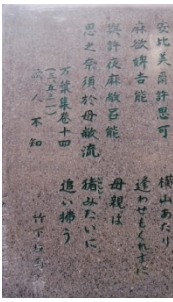
たゆみなく近代文学を移植し
魂乃あけぼのをもたらした
コックス親子三人
日本の平和と幸福を
とこしえに祈りつづけ
この國土に眠るコックス親子三人
志あるものその徳を慕い
み霊をなぐさめようと
石ぶみを建つこの丘に
あゝ魂はかおる
コックス親子三人

コックス親子三人の記念碑の内容



奥：コックス碑 中央：観音様
手前：万葉の鹿碑の歌





⑩ 学校法人片柳学園

八王子市片倉一四〇四一

東京工科大学、産官学共同の研究機関として近年開設された片柳研究所、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学院北海道専門学校を有する法人。

● 東京工科大学の主な歩み

- ・昭和二十二年（一九四七）
創美学園開設

- ・昭和二十八年（一九五三）
日本テレビ技術学校設立
- ・昭和五十一年（一九七六）
日本工学院専門学校と改称
- ・昭和五十七年（一九八二）
北海道校開校
- ・昭和六十一年（一九八六）
東京工科大学開学
- ・昭和六十二年（一九八七）
日本工学院八王子専門学校開校
- ・平成五年（一九九三）
大学院工学研究科修士課程（システム電子工学専攻）設置
- ・平成十一年（一九九九）
メディア学部設置（日本初）
- ・平成十五年（二〇〇三）
片柳研究所棟を落成
- ・平成二十二年（二〇一〇）
蒲田キャンパス外観デザイン学部、医療保健学部設置
- ・平成二十五年（二〇一三）
臨床検査学科新設

● 八王子キャンパスの学部

専門的な知識と人としての基礎力を高める実学主義と先進性を柱に人材の育成を図っている。

- ・メディア学部
メディアコンテンツ教育のバイオニア。最先端のメディア社会を創る
- ・コンピュータサイエンス学部
最先端のICT実学で現代社会の発展をリード
- ・応用生物学部
農学・理学・工学を融合したバイオ技術で地球規模の問題解決に挑む人材の育成
- ・バイオ・情報メディア研究科
バイオニクス専攻
メディアサイエンス専攻
コンピュータサイエンス専攻
アントレプレナー専攻



空から見たキャンパス全景

●片柳研究所

二十一世紀の様々な課題に応える卓越した研究活動の推進と、次世代をリードする高度な技術者の人材育成を目的として設立された。研究施設としては、クラウドサービスセンター、バイオナノテクノセンタ―、電界放出形透過電子顕微鏡等トップレベルの最先端研究を推進している。本研究棟内には独立行政法人「産業技術総合研究所」が設置されている。



カスケードより片柳研修所を望む

●日本工学院八王子専門学校

日本工学院は、「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療」「スポーツ」の七つのカレッジに分かれ、それぞれ独自の教育理念のもと、質の高い専門教育を実施している。また、社会に出る為の就職力アップサポートをカリキュラムに織り込んでいるなど充実した体制をとっている。



第二厚生棟



日本庭園



洋風庭園

◎参考資料

- ・「明治・大正の頃の相原」
- ・「多摩養育園資料」
- ・「八王子の歴史」
- ・「八王子発見」
- ・「八王子 寺院めぐり」
- ・「都立二商 七〇年のあゆみ」
- ・「八王子・日野今昔写真帖」
- ・「インターネットホームページ」
- ・「多摩丘陵に残る相原の御殿峠古道」
- ・「善寧児先生碑と文化財建造物群を歩

こう」

- ・「八王子散歩見聞録」
- ・「山野美容芸術短大ホームページ」
- ・「Web八王子辞典」
- ・「町田市の神社」
- ・「インターネット各ページ」
- ・「八王子市郷土資料館資料」
- ・「八王子市地図」
- ・「八王子市観光マップ」
- ・「昭文社」

ーメモー